

兵庫県生物学会50年の歴史(1)

☆☆☆ 目 次 ☆☆☆

| | |
|-------------------------|-------------|
| 50周年記念号刊行にあたって | 平畑 政幸 (72) |
| 神戸植物学ことはじめ | 白岩 卓巳 (73) |
| 発足の頃 | 稲葉 明彦 (73) |
| 但馬生物学会の思い出 | 山本 茂信 (74) |
| 栄光!!『兵庫生物』50周年 | 山本 茂信 (74) |
| 兵庫県生物学会の思い出 | 室井 綽 (75) |
| 懐かしい思い出 | 近藤昭一郎 (76) |
| 竜野支部発足当時の活動 | 杉田 隆三 (78) |
| 敗戦前後の丹波地方の自然研究 | 松山 確郎 (79) |
| 故樋口繁一君追憶—その熱心な採集行 | 松山 確郎 (80) |
| 先達が残した墨蹟 | 樋口 清一 (81) |
| 佐藤茂樹先生を偲ぶ | 新原 明 (86) |
| 兵庫県生物学会と父・佐藤茂樹 | 佐藤 博保 (86) |
| 森為三先生を偲んで | 三木 正士 (89) |
| 神戸生物クラブの誕生 | 春名 利雄 (90) |
| 紅谷先生のこと | 春名 利雄 (90) |
| 槌賀安平先生 | 清水 淳 (91) |
| 三浦佳文元会長の逝去を悼む | 森本 義信 (92) |
| 生物学会の屋台骨を強くした渋谷久雄先生 | 平畑 政幸 (93) |
| 猪股涼一先生の思い出 | 西本 裕 (94) |
| 白川の化石 | 前田米太郎 (94) |
| 淡路島の思い出 | 富川 哲夫 (96) |
| 『兵庫生物』と50年 | 高橋 壽郎 (97) |
| 『高校生物ハンドブック』発刊の思い出 | 内波 秀一 (98) |
| “現代生物学ゼミナール”誕生・発展・終焉 | 安房 明 (98) |
| ムラサキガイ研究、苦渋の30年 | 細見 彬文 (100) |
| (参考資料) 会員名簿(昭和22年12月現在) | 稲葉 明彦 (104) |

50周年記念号刊行にあたって

平畑 政幸

周りが褐色に変色し、古書の風格を備えてきたわたしたちの機関誌『兵庫生物』の創刊号が、昭和23年3月1日に発行されてから50年、星霜を経て絶えることなく続いて、ここに、半世紀を讃える真新しい記念号を手にするまでに発展してきました。

10周年記念号の紅谷第2代会長の寄稿文によれば、播磨期は大正8～9年の神戸博物館。故牧野富太郎先生の標本を所蔵して財政的援助をした池長植物研究所での活動でした。続いて昭和初期に兵庫県生物学会が発足しました。長田区丸山での逆断層の調査研究報告書は、昨年の阪神淡路大震災で再評価されています。また同じ頃、中学校教員からなる兵庫県中等教育博物学会がありまし

た。この三つの組織が一つになり、戦後いち早く兵庫県生物学会が創設され、全国でもまれである、長期で高い評価を受ける学会に躍進したといえましょう。

50周年記念号には学術的な論文に加えて、創立前後を中心に多くの先達の方がたのフロンティア精神と価値ある業績やその人となりを知りたく、また敬意の念を新たにしたいと考え、生物学会への思い出の原稿を多くの会員のみなさまにお願いしました。濃淡があり、名をあげることができなかった方がたもあって気がかりですが、次号への寄稿がいただければ幸いに思います。

この思い出の記が、未来ある若い会員のみなさんのご研究のヒントになり新しい出発点になること、また、教育の現場で語り継がれることを期待します。

(ひらはた まさゆき:会長)